

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎作業学		必修	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	水曜日 9:00~10:40		
授業の目的・概要	作業は人の健康や幸福感などに影響を与えていると言われている。本科目では作業療法に近接する学問の基礎に触れながら、作業を用いることの有効性や目的について理解することを目的とする。なお、授業は動画も活用して理解し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期に解決し、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。 また、この科目では作業療法概論や解剖学、運動学の基礎的な知識も土台として必要となるため、それぞれの科目の内容を理解しておくことが望ましい。				
教科書	標準作業療法学 基礎作業学第3版/編:濱口豊太/出版社:医学書院/2017年				
参考書	標準作業療法学 作業療法概論第3版/編:岩崎テル子/出版社:医学書院/2016年 ひとと作業・作業活動 新版/著:山根寛/三輪書店 ICF 国際生活機能分類/編:障害者福祉研究会/中央法規				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	なぜ作業が治療法として成り立つのか説明することができる。			OT(2)、(3)	
②	作業の治療法としての根拠を説明することができる。			OT(2)、(3)	
③	運動学や神経生理学の観点から作業療法を説明することができる。			OT(2)	
④	作業において自発的な行動が生まれることの意味を説明することができる。			OT(2)	
⑤	ライフステージによって異なる作業の課題を比較しながら説明することができる。			OT(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	[作業と治療の理解(1)] 人間と作業について学習する。	同時双方向型授業	事前に教科書 P.4~18 と提示資料のポイントを整理する。	3	
2	[作業と治療の理解(2)] 作業の分類について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.19~31 と提示資料のポイントを整理する。	3	
3	[作業と治療の理解(3)] 作業療法理論とその役割について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.31~41 と提示資料のポイントを整理する。	3	
4	[作業と治療の理解(4)] 作業療法士に必要なコミュニケーションスキルについて学習する。①	同時双方向型授業	教科書 P.42~51 と提示資料のポイントを整理する。	3	
5	[作業と治療の理解(4)] 作業療法士に必要なコミュニケーションスキルについて学習する。②	同時双方向型授業	教科書 P.42~51 と提示資料のポイントを整理する。	3	
6	[作業と治療の理解(5)] 作業の治療的応用について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.51~58 と提示資料のポイントを整理する。	3	
7	[作業と運動生理機能(1)] 作業に関わる運動について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.66~82 と提示資料のポイントを整理する。	3	
8	[作業と運動生理機能(2)] 作業に関わる運動について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.83~91 と提示資料のポイントを整理する。	3	
9	[作業と運動生理機能(3)] 作業に関わる運動について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.92~96 と提示資料のポイントを整理する。	3	
10	[作業と運動生理機能(4)] 作業に関わる運動について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.96~102 提示資料のポイントを整理する。	3	
11	[作業と心理学(1)] 作業を学習するための理論、作業を自発的に引き継ぐための理論、行動学習の方法について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.128~143 提示資料のポイントを整理する。	3	
12	[作業と心理学(2)] 作業を分析する手続き、作業の分析と作業療法への応用について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.143~155 提示資料のポイントを整理する。	3	
13	[ライフステージと作業療法(1)] 発達期、青年期の生活とその課題や、対象者のライフステージを考慮した作業の適合について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.175~194 と提示資料のポイントを整理する。	3	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

14	[ライフステージと作業療法(2)] 高齢期の生活とその課題や、対象者のライフステージを考慮した作業の適合について学習する。	同時双方向型授業	教科書 P.195～200 と提示資料のポイントを整理する。	3
15	「作業と治療」「作業と運動生理機能」、「作業と心理学」、「作業とライフステージ」などについて学習する。	同時双方向型授業	これまでに触れた教科書と提示資料のポイントを整理・復習する。	3
試	定期試験。達成度評価、評価のポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
	①	②		
試験	①	✓	学期末に試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書・配布資料・口頭説明の内容に基づく問題が出題され、その理解度が問われる。	研究室 (C308) またはリモート等で個別に振り返りを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備考

担当教員：榎田 哲弥

Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。

教員の実務経験：本科目の担当教員は 10 年以上の臨床業務経験がある。

実践的授業の内容：臨床で得た知見に基づき、基礎作業学に関わる基本的事項について教授する。